

S D G s × 防災で未来を拓く

一高等学校「地理総合」を通して防災を“あたりまえ”に一

兵庫県立明石北高等学校

明石北高校キャラクター



ノールくん

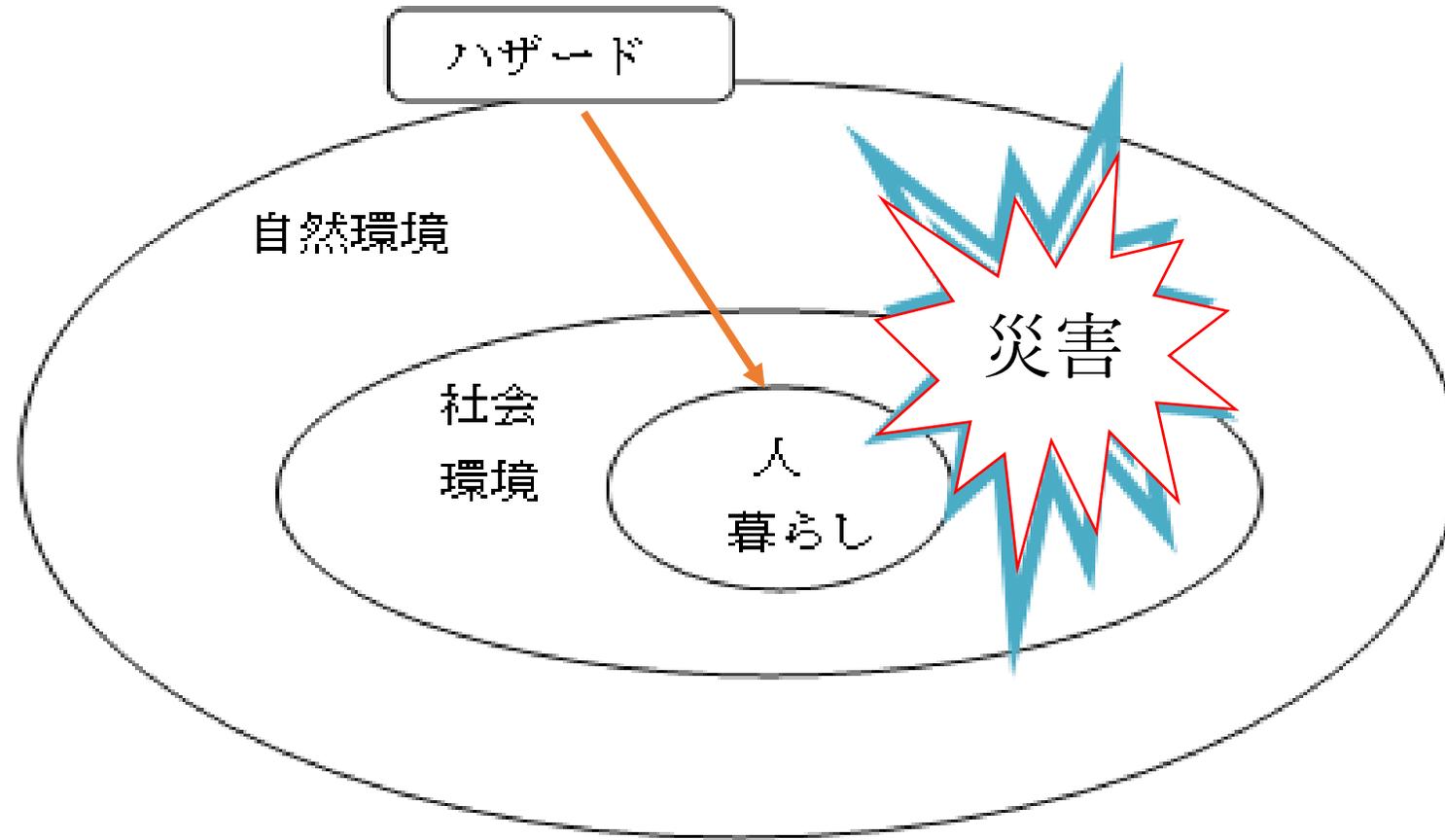
チャレンジの概要

- ①「地理総合」の学習目標に〈個と社会の防災力向上〉を掲げ、未災者である生徒と教師が共に学び合う
- ②地理的な物の見方・考え方をベースとして災害の要素・災害のサイクルを理解する
- ③多様な人々が安心して暮らし続けられる、持続可能なまちづくりに向けて課題解決のための探究を行う

はじめに：動機づけ（シラバスの提示）

学習内容	命と暮らしを守る視点
地図と地理情報システム	ハザードマップを活用し地域のリスクを理解して「自助」の力を伸ばそう
人々の生活文化と多様な地理的環境	災害時要配慮者について考えよう ／災害による産業への影響を考えよう
さまざまな地球的課題	災害の被害を拡大する「社会の脆弱性」について考えよう
地球的課題と国際協力・自然環境と防災	持続可能な社会の実現と防災・減災のつながりについて考えよう
災害への対策・地域調査	多様性に配慮し「共助」のためにできることを考えよう

「防災」の単元に入る前に：
災害の概念を理解して、地理的事象を学ぶ



地理総合でチャレンジ！（その1） 一つの授業で、一つ防災のタネをまく

毎授業で防災にかかわる「問い」を設定
生徒同士で話し合う機会を持つ

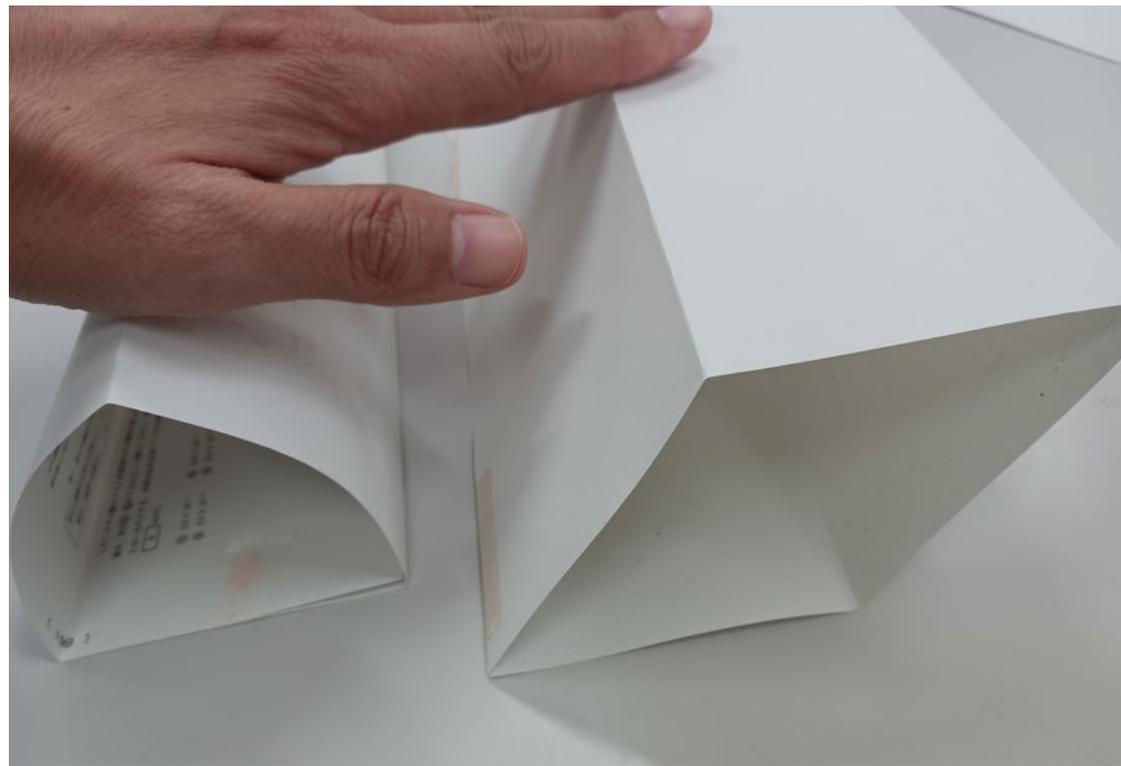
「土手（堤防）に桜の名所が多いのはなぜだろう」

「スマトラ沖地震の震源に近いシムルー島で被害が少なかったのはなぜだろう」

時には実験も…



液状化実験



耐震構造実験

地理総合でチャレンジ！（その2）

長期休業を活用する

夏季休業：地域調査「**まちのリスクと安心・安全を見つける**」

Ｙくんの
レポート

谷八木川の水害対策について



A リスク

柵が無く、草でどこに段差があるか分からないので落下してしまうリスクがある。



B 安心・安全

小さい子供や走行中の自転車等が落ちないように柵が張られている。



発表するＹくん
「まち歩きで出会った人
から話も聞けました」



生徒が選んだテーマ（一部）

- 無電柱化による安全とリスク
- 地震想定から考える危険な避難経路とAED設置条件
- 自宅の災害リスクから考える防災備蓄
- 水害への対策と避難の判断
- 南海トラフ地震が起きた時、祖母の身の安全を確保できるか
- 大雨の時の用水路の危険
- 神社は地震時の避難場所になるか
- 空き家の危険性と対処
- ショッピングモールは避難場所として適切か

冬季休業：市への提案ポスター作成

*「公共」と連携

「安心・安全で住みやすいまちづくりにむけて」

明石市に自習室を

魚住と明石に図書館がありそこに自習室はあるが混んで使えないこともある。

また、高校生が地域の方との繋がりを持てる場所が少ないように思える。



〈提案〉

地域の誰もが使える自習室を作り、教えあうスペースを作る
災害時は避難所にする
高校生が小学生・中学生に防災について教えるイベントを定期的に行う

〈メリット〉

- ・防災の知識を共有できる。
- ・避難所を自習室にすることで日頃からそこに行く人が増える。
- ・地域のコミュニティが発達する。

〈実現に向けて〉

高校生でその避難所までの安全な行き方などの地図を作る。
またその避難所のことを知ってもらうポスターなどを地域の小学校・中学校に配布する。

防災

～明石を自然災害から守るために～



災害に強い町作り

大雨・洪水時
→浸水被害対策のための排水機能



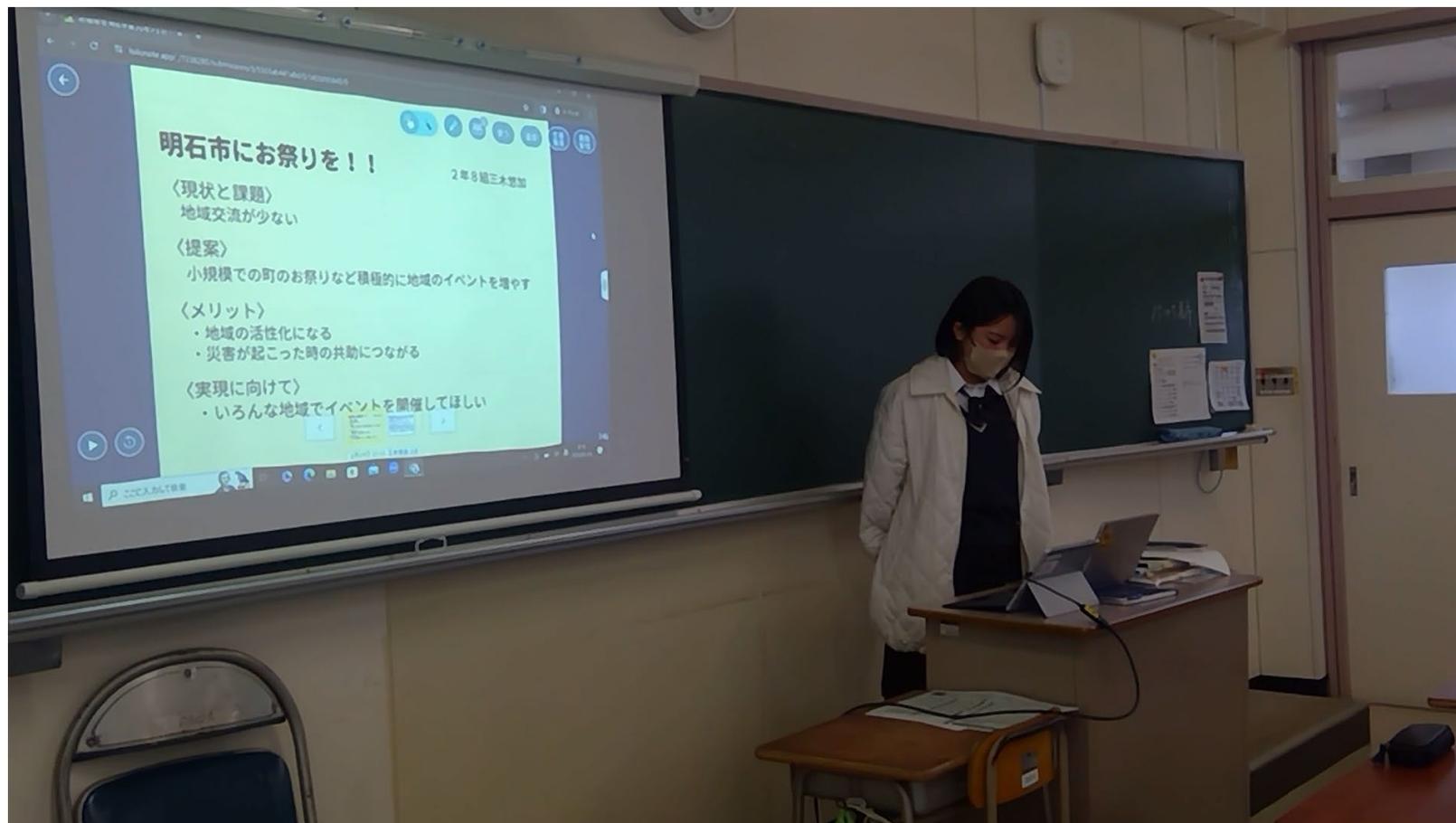
地震発生時
→食料などの備蓄



安全・安心への一歩

各クラス、授業で発表・相互評価→クラス代表選出
代表者が明石市長に向けてプレゼンを行う

クラスでの発表（相互評価・代表選出）



生徒の提案・要望（一部）

- 家の中の地震対策を専門家がチェック・アドバイスする制度
- 指定避難所を自習室に（＝日常的な利用で周知をすすめる）
- ため池防災の強化（側溝の排水機能を高める）
- 市民と行政が防災情報を共有するシステム（市民の危機意識を行政の事前対策に活かす）
- 要配慮者のアクセスを考慮した避難所の適正配置
- 津波避難タワーの設置
- 路地尊（注：東京都墨田区で採用されている地域コミュニティと災害用水確保の取り組み）
- 日常の安全と災害時の避難のための道路整備

地理総合でチャレンジ！（その3）

ワークショップを取り入れる

□ 「災害発生後の課題と対応」

- （1）東日本大震災経験者の語り動画（避難所、支援物資、学校再開、地域医療班、災害ボランティア、がれき処理、仮設住宅、生活再建）を視聴
- （2）各テーマについての課題をまとめ、対策を考える。

□ 「避難所運営の教訓」

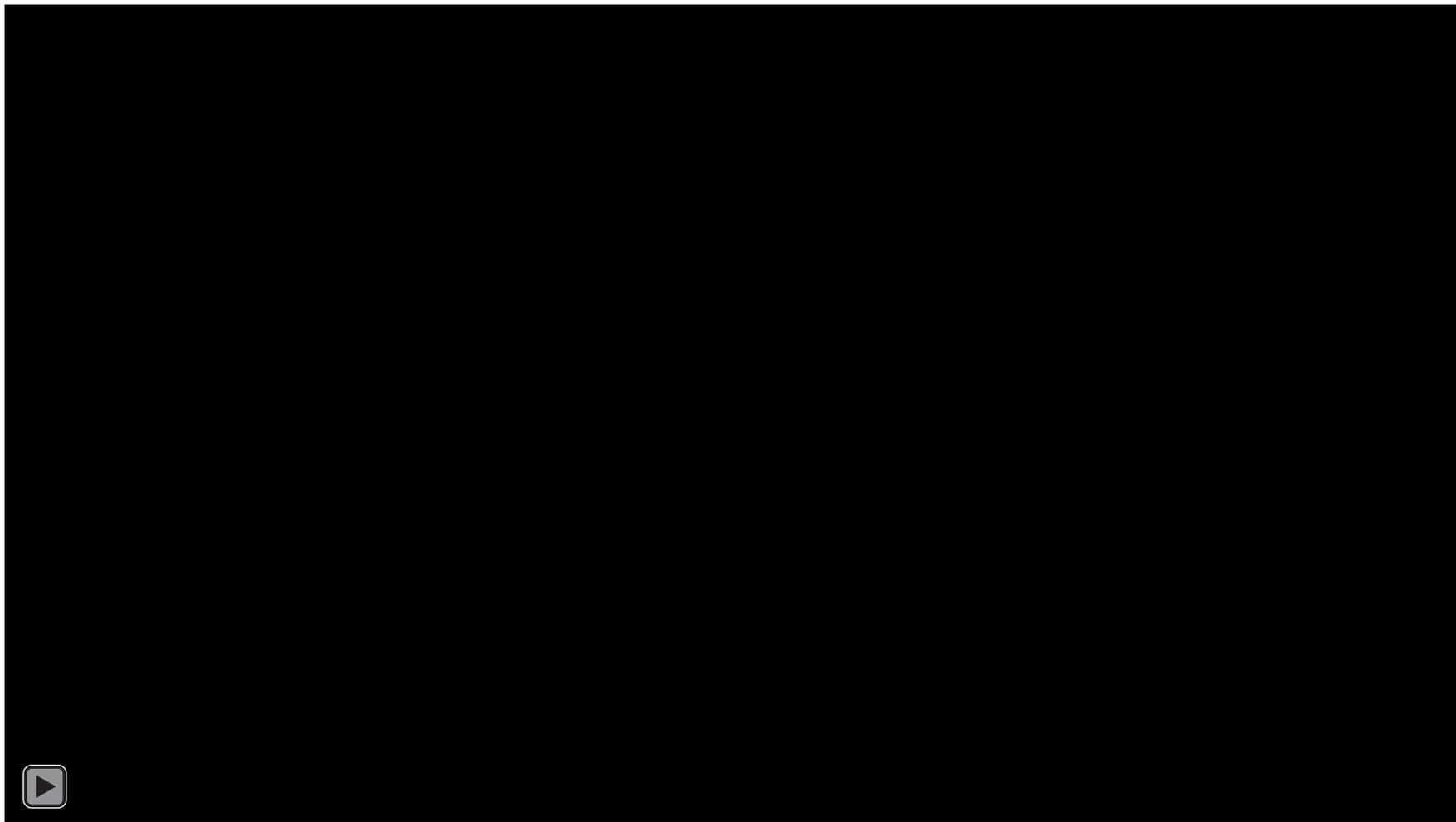
- （1）東日本大震災で起きた事（避難所の実際）
- （2）「誰一人取り残さない」～こんなとき、どうする～
与えられたテーマについて話し合い「正解ではなく、成解」を生み出し、提案を行う。

講師：齋藤幸男氏（石巻西高校元校長・防災士）

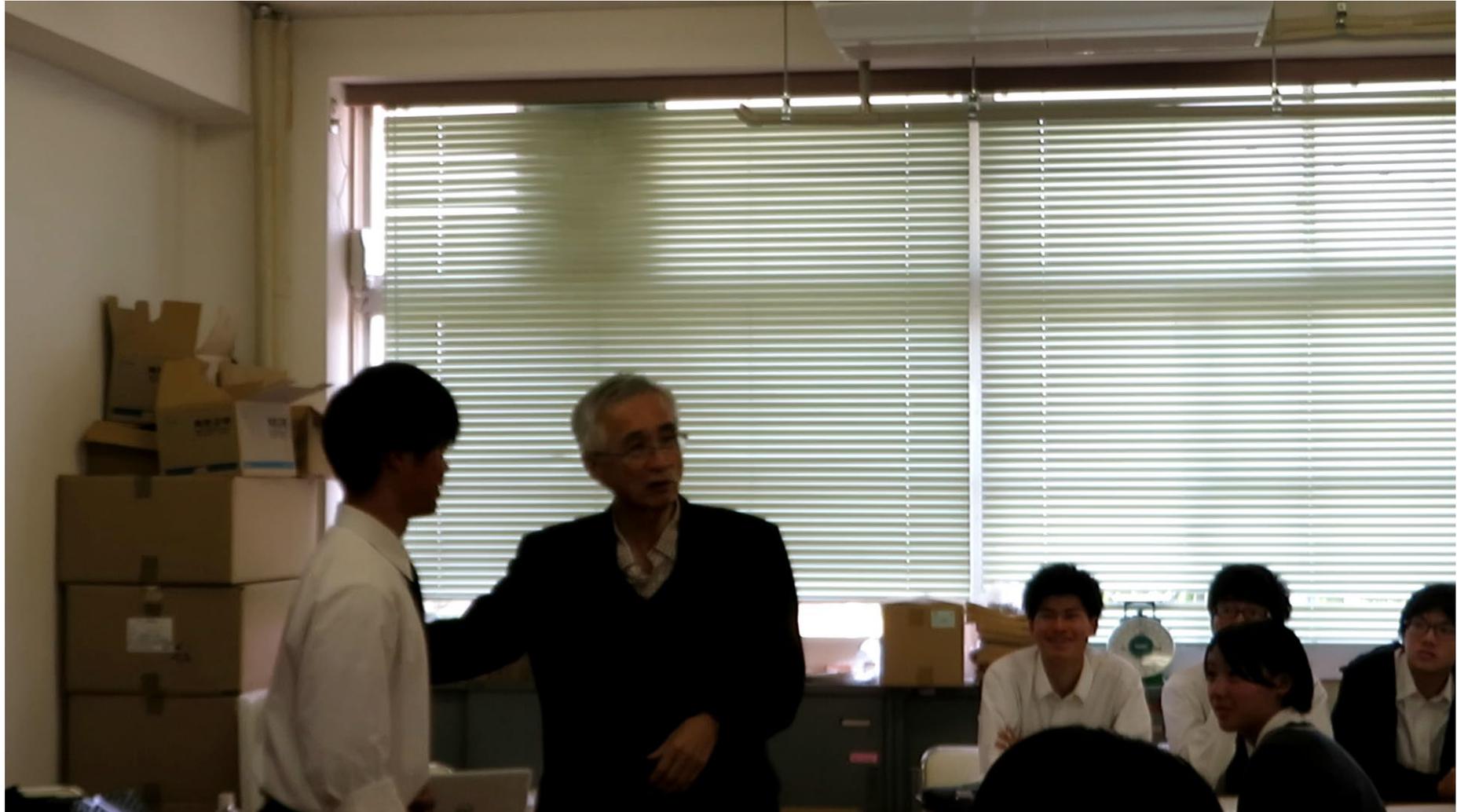
グループでの話し合いと作業



発表



体験者の言葉と意思を受け取る・バトンをつなぐ



地理総合のチャレンジを助けてくれたもの： 特別活動との連携



防災教育講演会

人権教育講演会
×防災

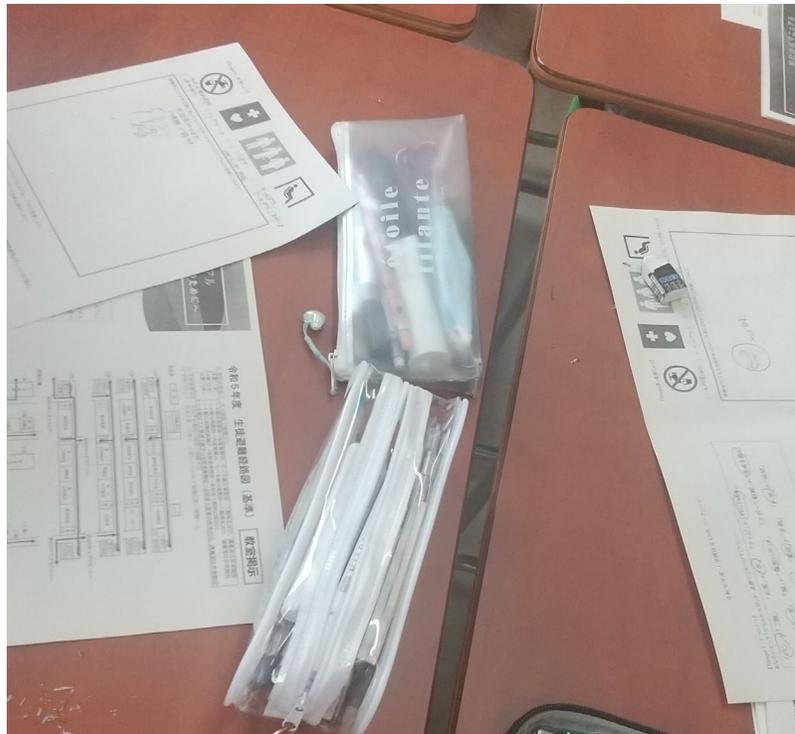


SDGs講演会
×防災



防災LHR

安心して過ごせる避難所のために
ピクトグラムをつくろう



下校時に地震が起きたら
どうするか考えよう

チャレンジの手ごたえ：探究活動への波及

学校設定科目「SDGs探究」

あるグループのテーマ

「災害時に避難場所となる公園のバリアフリー化を推進する」

地域防災公園に指定されている公園がバリアフリーでない。

災害時にすべての人が安心・安全に避難できるようにしたい。

⇒阪神・淡路大震災の対応にあたった職員にヒアリングし、
バリアフリー化に向けた改善策を提案

<結果> 2023年度第6回キャタピラーSTEM賞 奨励賞受賞

防災だよりの発行：学んだことを伝える

2年まちあるきレポートより

前回に引き続き、2年生地理総合の課題「防災まちあるき」の内容を紹介します。ある生徒は<液状化現象>と安全な避難経路・避難場所について考察を行いました。



おわりに：今後の展開

○授業 「夢と防災」

自分の進路・好きなことと、防災の関連を考える

- ## ○授業外
- ・被災地支援募金活動（生徒が企画）
 - ・防災学習（生徒がコンテンツを考え、生徒が進行）

ご清聴ありがとうございました